

当院では下記の研究を行っております。

研究課題： 口周囲ミオクローヌスを伴う欠神てんかん（POMA）：症候群の特徴と長期予後に関する研究

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんお一人お一人から同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、下記の「お問い合わせ」へご照会ください。

【研究機関】 国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター

【研究責任者】 川口典彦

【研究の目的と意義】

Perioral Myoclonia with Absences (POMA) は、欠神発作に口周囲のミオクローヌスを伴う全般てんかんの一つの疾患概念と考えられる。これまでに少数の症例や小規模症例集積が報告されているものの、その臨床的特徴、臨床脳波学的所見、治療反応性および長期予後については十分に明らかになっていません。また、POMA は現行の国際てんかん連盟 (ILAE) 症候群分類において独立したてんかん症候群として確立していません。そのため、多くの症例が他の疾患として認識され、診断の遅れが生じています。本研究では、当院で診療した POMA 患者を後方視的に解析するとともに、既報症例との比較・統合検討を行うことで、本症候群の臨床電気生理学的特徴や長期予後を明らかにします。本研究により、POMA の病態理解、診断精度の向上、適切な治療薬選択に関する知見の蓄積、および将来的な疾患概念の確立に寄与すると期待されます。

【対象】 当院で診療した Perioral Myoclonia with Absences (POMA) と診断された患者を対象とします。また、文献報告例との比較検討を行います。

【方法】 診療録、脳波検査、画像検査および治療経過を後方視的に調査し、発症年齢、臨床発作型、脳波所見、家族歴、治療内容および予後を評価します。さらに、既報症例を系統的に収集し、自験例と統合して臨床的特徴、診断上の課題および治療反応性を検討します。

【個人情報の保護について】

今回の研究による結果は、だれのものかわからないように匿名化し、プライバシーを保護した形で、学会・論文等に発表させていただきます。また、研究の参加を途中で取りやめたいと望まれる場合は下記問合せ先までご連絡ください。なお、いかなる場合にも不利益を受けることは一切ありません。

【問い合わせ先】 国立病院機構 静岡てんかん・神経医療センター 川口典彦
静岡県静岡市葵区漆山886 電話番号:054-245-5446 (病院代表)